

サーフィンライファー先達からの教え I - 2

—オーガスティン司教10項の説教を元にした
CLの教え—

David K. Reynolds, Ph.D.



正しい道を見極める

私たちは悪いと知ってすることを制限します。反社会的行為者ならいざ知らず、人は皆常識あるモラルを持ち、お互いを理解します。自分だけの基準に従って動くとうまくいきません。ましてや完璧な基準に従って行動しません。最も悲しく、一番良くないのは、自分をあきらめてやめてしまう動きです。完璧を見せかけ、諦めを見せ、悪いことには興味ないと言い切るのは、すべて自身を束縛する嘘です。あなたは物事に対して正直な人たちと共に仲間意識を見つけるでしょう。

人を傷つける活動から抜け出す決心と強さはどこから来ると思えますか？このモラルを自分にしみこませるのはなぜでしょう？このような疑問が宗教のドアの前に導きます。現在の科学ではその答えがなく、たぶんこれからも答えは出ないでしょう。あなたはそのドアをノックしようとするか、しないかもしれません。が、今、もう一度自分の良心に立ち向かうことは避けられません。自分自身を許すのは難しいかもしれませんが、簡単かもしれません。他の人たちを許すのは自分を許すより難しいです。それは自分が受け取る人というより与える人と捉えたく、トラブル・メーカーにならないようにと、余計に問題を抱えるからです。けれども、いくら行動に対する責任から逃れたくても、悪いは悪いままで。それで次にすることは？

ざんげは、感情のほとぼしりを聞く人たちに負担をかけながら、罪悪感の軽減を与えられるのかもしれませんが。過去の間違いを（治したいか治したくないと思っても）正しく治すのは不可能でしょう。常に、常に、それで私は今何をしますか？今なにをすべきか？何をするか？

事実は人の行動を見て、それに答えます。良いか、悪いか、間違っているか、正しいかの行動を通して結果が出ます。結果が正しかったか、そうでなかったか、予想通りだったか、意外だったか、嬉しかったか、嫌だったかはどうでも事実は必ず続きます。では、またなすべきことは？そして次は、また？そうやって人生ダンスは続きます。事実は音楽を奏で、ダンスフロアを提供して、ダンスの相手と衣装とテーブルを与えます。私は今謙虚さとか、感謝、愛について書いているのではありません。実際的事実であることについて述べています。物事を見定めて、行動で事実に答えるのが実際的ということです。感情は薄れて流れ、また湧きあがり、そして引きます。感情がすべてではなく、事実の一部です。

正装して変わった言葉表現で他の人を寄せつけない人は、高潔に見えるかもしれませんが(例えば、聖職者)。人々は普通自分が信心深く見えるよう合わせるでしょう。黄金の光に浸れるのは人間の力で可能だと信じたいのです。超人的な力に近づいてあやかりと求め、カリスマのグルを信じます。その欲求を発車させる前に、バスから降りてください。運転手にも乗客にもならないように。バス停はほとんどなく、あなたが考えるほど運行は順調ではありません。交通事故も起きます。

自分は正しい、間違っていないとする間違いを知る

世界がとにかく自分を支援してくれるから、悪いことをしてもその難から逃げきれると思ったりします。自分は全体として良いことをする方が多いので、他の人に少しぐらい迷惑をかけてもかまわないと考えたりもします。靴や椅子、タイヤ、器、水道の蛇口に支えられるに値する自分と思うかもしれませんが。いろいろなほんの「小さい」罪で一時刑務所に入れられると認めないかもしれません。横になって、例えば、嘘が表に出ないよう、記憶の独房に自分を入れてみてください。自分は天国に行くか、地獄に落ちるか想像してみます。もちろん私も自分の独房の机の上で書いています。罰の刑務所から逃れる切符を受け取れる人はいません。他の罪人を見たからと言って罪から逃れられるわけではありません。自分の悪をしっかりとみつめるのは事実を知ることです。


そこで人生の負債を負う取り組みのために何ができますか？自分を自由にしておこうと骨をおりながら、他の人の自由も保てるようにできることをしなくてはなりません。借りたエネルギー、借りた教育、借りた時間を使って借りた自分を差し出します。私たちは適切な場所に借りたものをただ返しているだけです。特別なことではありません。

すべての人を愛する必要はありません。勝った喜びを抑えなくていいし、敗けて後悔を覆い隠さなくていいです。怒りと失望は事実の道では仲間です。敵を歓迎して、共に前に進むよう招くことができます。負けてがっかりしながら勝った相手にお祝を言って、朝食を準備できます。腹を立てている自分を笑って、泣きながら洗車できます。そうするのは人間的で、実際的な人です。

他の人の行動のせいで腹を立てたり、落ち込んだり、混乱するときは、その人の見方を知るいい機会です。他の人の目的とすることは？その人たちに関わる意味は？その人の背景、歴史は？その人が自身に気づく状況は？嫌な行動をした人たちを許さないかもしれませんが、もっと良くその人たちを理解すると、自分の怒りはさほど問題でなくなり、自分とおなじ一面に出くわすかもしれません。外見はそれぞれ違って見えるとしても、結局のところ、ずっとよく似ています。人はすべて死にます。

完璧を目指したのに達成しなくて、常に自分と他の人たちに失望します。他の人もこちらの基準を見逃します。何かが高基準を高く保ちます。何かが高い基準に引き上げようとさせます。何かは自分を一番できる人間にしようとします。自分は一番の英雄であり、敵（自身との闘い）とも言えます。

私は自分の中の敵を親切に扱うよう勧めます。敵を愛することは自分を愛することです。しかし常に自分を越えた基準があります。敵を愛した場合、つかの間ですが、いい人生になります。こういうことができるのは事実からの贈り物といえます。思いやりがないのに親切にするのは偽善ではなく超越です。親切にしてくれる人たちに親切にするのはほめられるほどのことではありません。が、受け取るばかりの自分は他の人とのバランスはとれません。私たちは皆受け取った列車の旅客でいつか切符を返します。(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)

 [目次へ戻る](#)